

平成22年度 第1回通学区域審議会

開催日時：平成22年6月25日（金）午前10時から

開催場所：習志野市教育委員会2階会議室

出席者：審議会委員 福山委員（会長）、木村委員、三浦委員、鶴岡委員、櫻井委員、吉野委員、三代川委員、村山委員、青島委員、中台委員

市側（事務局） 植松教育長、諏訪こども部長、柴崎教育総務部長、押田学校教育部長、染谷こども部参事、井上学校教育部次長、江川こども政策課長、鈴木こども保育課長、江口こども保育課主幹、江口学校教育課長、こども保育課 妹川係長、山崎学校教育課 村田係長、松本、倉信

傍聴者なし

議題及び会議の概要

【議題】「習志野市立幼稚園の通園区域の変更について」

【会議の概要】

事務局より習志野市立幼稚園の通園区域の変更について、資料に基づいて説明

質疑応答

（A委員） この資料だけでは、なぜこういうことをやるのか目的が分からない。まず、第1期再編計画が何なのか。そこから説明してもらいたい。

（こども政策課長） 昨年8月に決定された習志野市こども園整備と既存市立幼稚園、保育所の再編計画について説明する。その背景は、習志野市の幼稚園が15～20年の間、定員割れをしている。そこで実花幼稚園とつくし幼稚園を平成24年度末に公立としては廃園し、そのあとは私立幼稚園にまかせるということを考えた。具体的には、公立は4、5歳児が対象で、私立は3歳児も対象になるので、これに対応できるような建物に改修が必要。平成25年度の1年間を、この改修期間とし、26年度から新たに再出発する。そうすると、この2幼稚園の園区で、公立に行きたいという人のための園区の設定が必要になる。

（B委員） 園児が少なくなっているという問題だが、公立に3歳児が入れないからではないか。3歳児保育を公立でもやるよう議会にも出ていた。5歳児と3歳児の兄弟で二人とも公立には入れないので、それなら私立に入れた方がいいという人もいた。ただ、通園がきびしくなったらバス通園には反対できないが、その前に幼稚園の私立化とこども園化に疑問、不安という市民が71%いる。私

としては、賛成していいのか、反対していいのか迷っている。
もう一つ、中学校区は7区あるのに、3区とはどういうことか。

- (こども保育課長) 今の社会情勢として働いている母親が多いため、幼稚園より保育所の需要が多くなっている。保育所の待機児童が多いこともある。バスについての要望は、議会でも出たので、実花地区から大久保東や新栄に通いたいという人がいる場合には、検討する。中学校区については、将来的に園区がなくなる課程における過渡期として考えた。
- (A委員) 今は過渡期なのだろうか。アンケート等市民の声が反映された資料がないのでは、こういう審議会のやり方には反対である。
- (こども保育課長) 資料はないが、昨年8月のパブリックコメントで様々な指導をいただいた。
- (A委員) 市民から、現状通りできないかという相談を受ける。公立幼稚園は全国的な習志野の特徴であったのに、なぜそれをなくすのか。公立幼稚園がなくなるとますます少子化になる。無理な計画である。
- (C委員) 将来を考えて、子育て支援のニーズからこども園構想がある。私立幼稚園も減っていることから、共存共栄が望まれる。公立幼稚園が3歳児をとったら、私立幼稚園がつぶれてしまう。そこで、幼稚園教育は私立に任せ、保育を充実させる。園区については、今のままでは通えなくなるので、広げる。行けなくなるのではなく、選択できるようにする。
- (A委員) 子どもが少なくなってきた原因を追求していない。対策もとっていない。根本的に見る角度が違う。市民、保護者の立場で見てほしい。
それと、狭い街にバスはもういない。習志野は10分歩けばなにかの公共施設があるという街づくりをしてきた。それを壊そうとしていないか。
- (D委員) 子ども園のことは、いろいろと議論があるんだというのが率直な感想だが、習志野から全国に発信しているということは市民として誇りに思う。
幼稚園区は、中学校区3つとのことだが、自由選択はできないのか。できるのであれば、非常に好ましい分け方である。園区を自由にして幼稚園が競争し、それによって子ども園の編成を考えるとというのが市民ニーズにあっている。
- (こども政策課長) 保護者には、まだ新しい園区案を具体的には示していない。再編計画を進めていく中での園区の見直しについては、これまでも言ってきた。
- (B委員) 実花幼稚園区からのバスの経路は決まっているのか。また、何人ぐらいの人が利用する予定なのか。また出発点から何分くらいかかるのか。
- (こども保育課長) 今現在の実花幼稚園の園児数は67名で、それぐらいの人数を予測している。バスについてはまだ具体案はない。検討していく段階である。

- (B委員) バスの認可はとれるのか。
- (こども保育課長) 委託や直営委などなどいろいろなやり方があり、それをコストや安全面等総合的に判断していき、認可もとれるようにする。
- (B委員) バスの運行は、何年くらいまで続くのか。
- (こども保育課長) 実花幼稚園区の中で、私立には行かないで公立幼稚園が希望だという人がいなくなれば、必要なくなる。
- (B委員) こども園7つで、市立幼稚園はいくつになるのか。
- (こども政策課長) 公立幼稚園が小学校の中にあるのも特徴だが、これを私立化するのは難しいと思う。よって全部私立化、こども園というのも難しい。しかし受け入れ体制と需要にあまりに差がある。これは埋めていかなければならない。
- (B委員) どこか。大久保東幼稚園か。
- (こども政策課長) 今の第1期では、実花とつくしだけで、あとはまだ決めていない。
- (A委員) 執行部幹部の考え方が一致していないのではないかと。議会も含め人によって答弁が違う。改革はいい、駄目とも言っていないが、よく練り合わせてから、いい説明をしてほしい。もっと検討してから、審議会を開かないと市民は困る。区割りがいいとか、悪いとかというところまで、まだ行っていない。習志野市は京成線を境に市民の考え方が違うこともある。これを調整しながら、行政の考えだけでなく、民意を取り入れて、もう一度検討してほしい。
- (E委員) 園区の弾力化はいつまで続くのか。
- (こども保育課長) 園区が存在する限りにおいて続く。
- (E山委員) 弾力化区域は、どこでも行けるのか。
- (こども保育課長) 弾力化区域は、両方の園区から選択できる。
- (F委員) 実花園区に不公平に見える。実花に対しては説明しているか。
- (こども保育課長) 実花地域の方の負担を全体で受け止める。まず東習志野こども園に申し込みができるようにする。また、今は徒歩通園が原則だが、自転車やクルマでの通園も考える。さらには通園バスも検討している。
- (F委員) 小学校に入学する段階で、そのまま違う学区の小学校へ行きたいと言われたら

どうするか、対策は考えているか。友達関係等そこまで考えてほしい。

- (A委員) 今の問題は大きい。いじめられないか心配。しっかりと考えてほしい。また、今まで徒歩通園が原則だったのを、行政の都合でこころろ変えるのはおかしい。さらに、子どもが減っているのに、バスというのも矛盾している。
- (D委員) 7月20日までといていたが、それで間に合うのか。
- (こども部長) 2歳児の保護者に対して、10月の募集までにはっきりさせなければならない。そこで市民に説明して、考える時間を与えたい。そのためには7月中に答申をいただきたい。
- (教育総務部長) 教育委員会会議も経なければいけない。
- (会長) 事務局は、本日審議委員から出た貴重な意見をまとめ、後日報告をする。本日の審議はこの程度にとどめ、再度、通園区域の変更については、審議を行う。次回の審議会の日程については事務局で調整する。